



地域に支えられて

先日、三豊中学校の創立四十周年記念誌に目を通すことができました。そこには、かつて、地域の代表と言える方々が、子どもたちが恵まれた施設・設備のもとで教育を受けることができるために、昔の村ごとにあった小さな学校を統合しようと、何度も準備の話し合いを持ったこと、統合が決まった後は、丘の上の農耕地を地域住民の方が総出で土地を整え、建物を建て、昭和25年（1950年）4月の開校を迎えたことなどが書かれていました。また、今も生徒玄関の前にある「寒山拾得（かんばんじっとく）」の像（右の写真）が、地域の方から寄贈され、開校当初から、三中生を見守り続けていることが記されていました。

この「寒山拾得像」については、先の記念誌の中で、第六代校長である大西季男先生が、次のように書かれています。

「三中に赴任して、興味をひかれたのは、中庭に建つ中国人風の二人の石像であった。このような像がなぜ学校にあるのだろうか。職員に尋ねてみても『寒山拾得です。』という答えの外には、何も返ってこなかった。鷗外の小説を読み、辞書を引いて、寒山拾得は文殊と普賢菩薩の化身であることを知った。智を磨き徳を練る建学精神が、黙示されているように思われ、（後略）」（創立四十周年記念誌より引用）

三豊中学校の成り立ちを知ると、いかに地域の方に支えられて今日があるのかということが、あらためて分かります。私たちは、その地域の方の思いに答えなければなりません。私たちなりの方法で、何かを返さなければなりません。

「生きているということは 誰かに借りをつくること 生きていくということは その借りを返してゆくこと 誰かに借りたら誰かに返そう 誰かにそうして貰ったように 誰かにそうしてあげよう」（「生きているということは」作詞：永六輔、作曲：中村八大）

三中生が明るく元気で、礼儀正しく、頑張っている姿を見ていただくことで、地域の方が元気になってくださる。そんなことができればいいなあと思います。そのためには、自分を大切にすること、今を大切に生きること、そして、これからの後輩たちに、よりよい学校として三豊中学校を引き継いでいくことを、生徒・教職員・保護者の皆様、みんなが力を合わせてやらなければならないと思います。

何年後かに、「令和初期の三豊中学校はいい学校だったんだなあ。」と言ってもらいたいですね。

様々なご意見 ありがとうございます

2学期末のアンケートにおいて、様々なご意見をくださり、ありがとうございました。私たちの状況をご理解くださり、多くの方から温かいお言葉を頂戴しました。心から、感謝申し上げます。

教科指導については、授業改善はもちろん、各種ドリルや三中検定の内容・実施方法なども見直し、基礎・基本の定着を徹底させることを全職員で確認しました。ご家庭でも、ノートやワークなど、お子さんがどのように学習に取り組んでいるかを、時々ご確認いただけると、幸いです。

また、ある学年の保護者の方から、「4クラスあって1クラスだけ教科担任が違うのは、不公平ではないのか」というご指摘をいただきました。これにつきましては、その教科の教師数、教師一人の持ち時間数、役職などによる時間数制限などから、どうしても生じざるを得ないことですので、申し訳ありませんが、ご了承ください。なお、不公平が生じないように、同一教科内での協議を日常的に行っておりますし、2学期末テストでも、クラス平均の大きな差は生じておりませんので、ご報告させていただきます。

交通指導については、学校でも繰り返し指導をし、補導にも回っていますが、十分な効果が出ていないのが現状です。今後も引き続き指導するとともに、道徳教育のさらなる充実など、命の大切さや決まりを守ることの重要性などについても指導して参ります。しかしながら、ご家庭でのご指導に勝るものはないと考えますので、よろしく願います。

防犯については、数年前から、教育委員会へ防犯カメラの増設に関する予算要望を続けていますが、実現には至っていません。今後も、引き続き要望して参ります。

その他のご意見につきましても、真摯に受け止め、対応して参りますので、今後とも、ご協力をお願いいたします。

